



## ◇いっしんどう広場A1-2杉林の作業計画案

①現状（平成26年10月19日現在）



②目標景観 ※5年後



## （作業目的）

- イ) 水源のかん養と土壌の流失防止。
- ロ) 下草や広葉樹など多様な植生の再生。
- ハ) 健全な杉と草本の2階層の景観作り。

## （作業内容）

- ・林床のアオキ、シロダモの除伐と搬出。
- ・主木（杉）の適正密度への間伐作業。  
一応の目安として100㎡中に10本以下  
枯木・弱小木・罹患木の除伐、間伐作業。
- ・発生材（草本、落枝等）の有効活用。  
ウォーターバーの設置。  
カントリヘッジ（柵）の設置等。

## （保全作業が目指す環境目標）

- ・健全な杉と林床植物の多様な環境。
- ・杉林後の中間的に位置付く、  
針広混交林への候補木の育つ植生環境。  
候補木としてコナラ・クヌギ・ムク  
ムラサキシキブ・エノキ・イヌビワ等
- ・円海山近郊特別緑地保全地区の計画に  
準拠した『カブト虫の森』を目指す  
事前の植生環境へ。

## 【 記事 】

- 植生による『水資源貯留』の違い。 裸地の場合は79mm/1時間当たり  
(林地の水及び土壌保全機能の研究より) **②目標景観になると貯水量は3倍以上の258mm/1時間。**
- 目標景観になると、枯れた草花を土壌昆虫や微生物・キノコ類が分解し栄養分に富んだ  
土壌に変えて行きます。表土1センチメートルを形成するに100年から400年かかるそうです。  
**土壌浸食により10センチメートルの表土が削られれば、再生するのに1000年以上かかる事になります。**  
ですから、土壌は私達（皆）の大切な財産です。  
今日の保全作業は健全な杉林を作る一歩ですが、結果的には沢山の植物を元気にし人間の生活を  
支えてくれている土壌作りにもつながって行くことに成ります。

## 【 作業中の危害管理と対処法 】 スズメバチ類に刺された時。

- 刺された場合  
傷口を流水で良く洗い流し、手で毒液を絞り出す（又はポンズンリムバーを使用する）  
この際、口で吸い出してはいけない。口内に傷口があると傷口から体内に入るので危険です。  
患部には虫刺されの薬（抗ヒスタミン軟膏）を塗る。アンモニアは全く効果がないそうです。
- ※注意1）刺された場所が巣の近くなら、速やかにその場所から離れる。一匹のハチは刺した時  
興奮物資を空气中にまき散らすので多数のハチが集まります。**30m以上離れること。**
- ※注意2）以下に覚えのある方は、直ぐに病院に行き治療を受けて下さい。  
**以前刺された時症状が重く、年齢が40歳以上の男性の場合は特に注意が必要です。**